

「思考力・判断力・表現力」の育成に向けた

児童の主体的・対話的で深い学びの充実

指導主事 上村 謙太郎

研究協力員 芦北町立田浦小学校 教諭 福溝 祐一

1 研究主題について

芦北町立田浦小学校の学校教育目標は、「豊かな心を持ち、自ら学ぶ、たくましい子どもの育成」である。また、目指す子どもの姿は以下のとおりである。

豊かな心を持つ子ども	○思いやりの心を持って、人とかわかることのできる子ども ○自分の命も他の命も大切にすることのできる子ども
自ら学ぶ子ども	○自分の思いや考えを伝え合うことのできる子ども ○興味を持って学習に取り組み、粘り強く学習することのできる子ども
たくましい子ども	○元気なあいさつと大きな返事のできる子ども ○最後まであきらめず、力いっぱい運動することのできる子ども

上記の学校目標及び目指す子どもの姿を基に、本研究における「これからの社会に求められる資質・能力」について、研究協力員と協議を行った。その結果、「自ら学ぶ子ども」の中の「自分の思いや考えを伝え合うことのできる子ども」に着目し、これからの社会に求められる資質・能力を「思考力・判断力・表現力」と設定し、検証を図ることとした。

2 研究の視点

今回、小学校社会科では、児童の「思考力・判断力・表現力」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びを充実させることに取り組んできた。

ここで、児童の「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した主体的・対話的で深い学びを充実するための取組について、三つの視点から述べる。

(1) 視点1「学びを引き出す」について

本単元は、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。また、本

単元は、我が国の国際的地位が向上した背景として様々な歴史的事象を捉えることになる。そこで、本研究においては、それらを多角的に考察したり関連付けたりする活動を通して、歴史的事象の意味や意義を児童自身で見いだしていくことができるように、単元を貫く問いを設定した。また、条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動に取り組みさせることで、本単元の学習に生徒がより主体的に取り組むことができるようにしたいと考えた。この取組によって、問題解決的な学習の中で、主体的・対話的で深い学びが行われることを目指し、児童の「学びを引き出す」こととした。

(2) 視点2「学びを振り返る」について

児童の資質・能力を育むためには、教師のみならず、児童自身が考えの変容を見取ることができるようにするとともに、資質・能力の高まりを意識できるようにすることが必要である。

そこで、本研究では、他の考えとの共通点や相違点を明らかにしたり、考えや意見の変容を視覚的に捉えたりすることができるように、ワークシートの工夫を行った。また、毎時間の終末において、キーワード作文形式のまとめにより学習内容の定着を図るとともに、学びの深まりや考えの変容の自覚を促す振り返りを行わせるようにした。これらの取組によって、思考過程の可視化を行い、生徒の「学びを振り返る」手立てとした。

(3) 視点3「学びを支える」について

児童の言語活動を充実させるためには、児童一人一人が課題を明確に捉えるとともに、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことが必要である。

そこで、本研究では、ICTを活用することにより、教材の拡大提示を行い、課題の把握や考えの共有化を図った。また、田浦小学校独自の話型カードを活用した対話活動を日常的に行うことで、誰もが話しやすい学級の雰囲気づくりに努めた。これらの

取組によって、全ての児童が課題を明確に捉えるとともに、根拠を明らかにしながら自分の考えを持ったり、伝えたりすることを目指し、児童の「学びを支える」こととした。

3 研究の実際

小学校 第6学年 単元名 「世界に歩み出した日本」

(1) 本単元の授業設計

本単元は、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

また、本単元では、思考力・判断力・表現力育成の観点から、歴史的事象を多角的に考察したり関連付けたりしながら、事象の意味や意義を児童自身で見いだしていくことができるようにしたいと考えた。そこで、単元を貫く問いを設定し、毎時間、問いを意識しながら課題を追究させていくとともに、歴史的事象を多角的に考察したり関連付けたりする場として、条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動に取り組みさせることにした。

① 単元の指導計画

時	学習活動	評価及び研究の視点
1	ノルマントン号事件の風刺画から、当時の日本が抱えていた外交上の課題について考える。	風刺画から当時の日本の立場に対する課題意識を持ち、進んで調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 視点1 ②意思決定の場を設けることにより、当時の人々の困惑に迫り、課題解決に向けた主体的な学びにつなげる。
2	年表づくりを通して、陸奥宗光や小村寿太郎の業績を知り、単元を貫く問いを設定する。	条約改正に向けて、どのような出来事があったのか、誰が条約改正を成し遂げたのかが分かるように年表にまとめている。【技能】
どうして日本は条約改正を成功させることができたのだろう。		

3	日清・日露戦争によって、日本と世界の国々との関係がどのように変わったかを考える。	日清・日露戦争の背景や戦いの様子、結果などから、日本の力が国際的に認められたことを理解している。【知識・理解】 視点2 ④キーワードを用いたまとめを行わせ、学習内容の定着を図るとともに、課題解決の手掛かりの一つとさせる。 視点3 ⑤風刺画などを電子黒板で確認し、当時の日本の立場を押さえることで、二つの戦争の意味を考えられるようにする。
4	朝鮮の植民地化、医学の分野での貢献など、日本の世界における立場の変化について考える。	北里柴三郎や野口英世らの業績に関心を持ち、進んで調べようとしている。 【関心・意欲・態度】
5 6	国力の充実に向けて行われた歴史的事象の意味について、条約改正と結びつけながら考える。	国力の充実に向けて行われた歴史的事象の意味について、条約改正と結びつけて考え、判断している。 【思考・判断・表現】 視点1 ①条約改正への影響をランク付けすることで考えの違いを生み出すとともに、事象の意味を深く考えられるようにする。 視点2 ③チャート図を用いることで、歴史的事象に共通する「国力充実」「国際的地位の向上」といったキーワードに気付けるようにする。
7	産業の発展によって、日本国内で起こった社会問題や人々の意識の変化について考える。	公害の発生や民主主義の意識の高まりなど、日本国内の生活が変化したことを理解している。 【知識・理解】
8	明治時代における日本の国際的地位や国民の意識の変化について、関連する人物の働きや思いと関連付けながらまとめる。	複数の歴史的事象を関連付け、「国力の充実」などのキーワードを用いながら適切にまとめている。 【思考・判断・表現】

② 言語活動の充実

本研究では、児童の思考力・判断力・表現力を育成するために、考えの差異を明確にしたり、歴史的事象の意味や因果関係を深く捉えたりする「対話」を重視した。その際、田浦小学校独自の話型カードを活用したり、考える際に困った点や迷った点を出し合ったりさせることで、対話の活性化を図った。

また、条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動において、チャート図を取り入れたワークシートの活用を図った。このことによって、友達との考えの類似点・相違点を明らかにしたり、共通点を見いだしたりすることで、児童の思考力・判断力・表現力の育成につながるようにした。

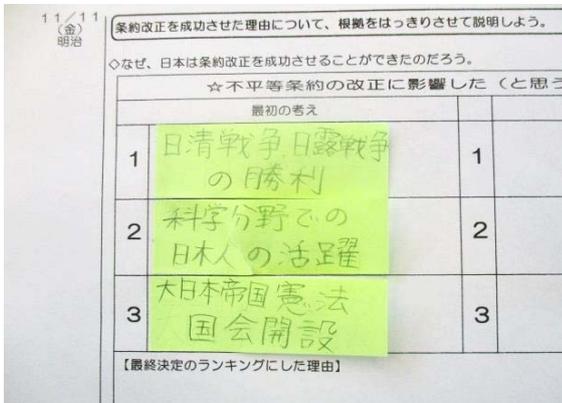


図1 チャート図を取り入れたワークシート

(2) 指導の実際

ここでは、指導計画の第5時（検証授業）について述べる。

第5時

① 本時の目標

条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動を通して、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争などの歴史的事象の意味を条約改正と結びつけて考え、判断している。

② 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入5分	1 前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。 	○前時までに作成した年表を用いて、時系列に振り返りを行うことで、関連性を促す。 徹底指導 (ポイント) ○本時の学習における考えの根拠となるため、項目の内容を丁寧に押さえる。	年表 電子黒板

展開30分	<p>条約改正を成功させることができた理由について、根拠をはっきりさせて説明しよう。</p> <p>2 本時の問いについて話し合う。</p> <p>[本時の問い]なぜ、日本は条約改正をすることができたのだろう。</p> <p>(1)自分なりのBEST 3とその理由を考える。 (2)グループで話し合い、BEST 3を決める。</p>  <p>(3)各グループのBEST 3を発表し、話し合う。</p> 	短冊ワークシート
	<p>○意見の差異を明らかにするとともに、話し合いを焦点化するために、項目は五つに絞る。</p> <p>①文明開化 ②富国強兵（徴兵令、殖産興業） ③大日本帝国憲法と国会開設 ④日清・日露戦争 ⑤科学の分野での活躍</p> <p>徹底指導(ポイント) ○話型カードを基に、「結論→理由」の話し方を確認する。</p> <p>能動型学習(ポイント) ○人と違う考えを大いに認め、「なぜAが1位なのか」「CよりBが上なのはなぜか」という視点で意見交換をするように促す。</p> <p>評価：思考・判断・表現（ワークシート）</p> <p>B基準条約改正に及ぼしたと思われる影響を、歴史的事実を根拠として考え、表現している。</p>	
	<p>【言語活動】(設定の意図) BEST 3とその考えの根拠を交流する活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	
	<p>3 学習したことをまとめる。</p> <p>(1)自分の考えるBEST 3を見直し、その根拠を書く。 (2)考えを発表し合う。ペア発表 全体発表</p> <p>4 学習したことを振り返る。</p> 	

以下は、あるグループの話合いの発話記録である（一部抜粋）。

【個人の意見を出し合った後の話合いの様子】
 児童A：1位は、みんなの意見が同じだったので、日清・日露戦争でいいですか。2位はどうしますか。
 児童B：科学の分野での活躍だと思う。大日本帝国憲法と国会開設では条約は改正されなかったけれど、科学の分野での活躍の後に改正されたから。
 児童C：ぼくは、国会開設だと思います。アジアで初めてだし、国際的地位が高まったと思うから。
 児童B：でも、科学の分野での活躍で条約改正されたのではないの？
 児童D：やはり、アジアで初めての憲法が出されて、それが国際的地位の向上につながったからだよ。
 児童A：どうしますか。大日本帝国憲法と国会開設でいいですか。3位は科学の分野での活躍にしますか。
 児童D：徴兵令は？徴兵令があったから、日清・日露戦争での勝利につながったんじゃないの？
 児童B：でも、科学の分野で世界に注目されるようになったと思う。

児童は、歴史的事象の意味や相互の関連を踏まえながら、互いの考えを伝え合っていた。そして、全員の考えを総合してBEST3を決定していた。さらに、全体での話合いにおいては、第2時で作成した年表を参考に、時間軸という社会的な見方や考え方をいかしながら発表する姿が見られた。



図2 年表を活用しながら説明している様子

児童は全体での話合いを終え、自分の考えるBEST3を改めて考えた。その結果、児童22名のうち、最初の考えと変わらなかった児童は4名、変わった児童は18名であった。以下は、最初の考えと最終決定の集計結果である。

順位	最初の考え	最終決定
1	日清・日露戦争 (22名)	日清・日露戦争 (22名)
2	大日本帝国憲法 (16名) 科学 (5名) 文明開化 (1名)	科学 (12名) 大日本帝国憲法 (8名) 富国強兵 (1名) 文明開化 (1名)
3	富国強兵 (8名) 科学 (8名) 大日本帝国憲法 (4名) 文明開化 (2名)	文明開化 (12名) 富国強兵 (6名) 大日本帝国憲法 (2名) 科学 (2名)

また、以下は、最初の考えと変わった児童がワークシートに書いた理由である（一部抜粋）。

児童E：科学技術、生活の洋風化など、様々な面で他の国に認められたから。
 児童F：6班の発表を聞いて、日本はいろいろな面で他の国に認められたと考えたから。
 児童G：4班の考えを聞いて、科学分野での日本の活躍は世界に貢献していることが分かったので、最初は入れていなかったけれど3位に入れました。

上記の他にも、対話を通して、歴史的事象を多面的に捉えることができた様子がうかがえる記述が多く見られた。

(3) 検証結果と考察

【視点1】

単元を貫く問いを設定したり、条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動に取り組ませたりしたことで、第3章第2項で述べたように、児童は歴史的事象を多角的に考察したり関連付けたりしながら、事象の意味や意義を見いだすことができた。また、時間軸という社会的な見方や考え方をいかしながら発表する姿も見られ、審議のまとめ(2016)に示されている「各教科等で習得した概念や考え方を活用した『見方・考え方』を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、想像したりすることに向かう深い学び」を行うことができたと考える。

【視点2】

この授業実践においては、社会科学習に関する意識調査(4件法:16項目)を実施し、学習前後における回答の分析・検証を行った。その一部を以下に示す。

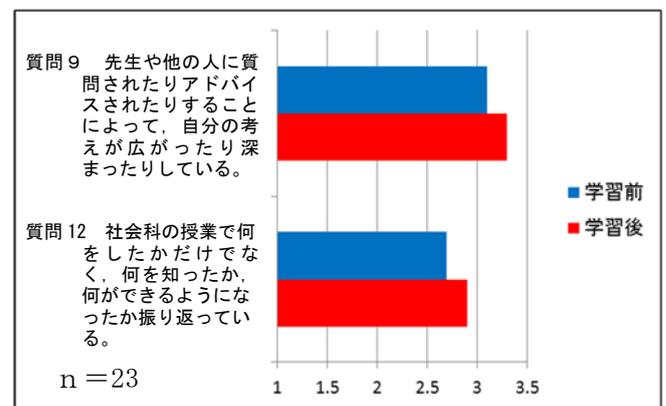


図3 学習前後の意識調査の結果(一部抜粋)

本研究では、友達の考えとの共通点や相違点を明らかにしたり、考えや意見の変容を視覚的に捉えたりすることができるように、ワークシートの工夫を行った。質問9の項目に高まりが見られたことから、ワークシートの工夫を行ったことで、児童は自分の考えが広がったり深まったりしているという実感を持つことができたと考える。

また、本研究では、学びの深まりや考えの変容の自覚を促すための振り返りを行わせた。以下は、検証授業における児童の振り返りである（一部抜粋）。

- 友達の意見を聞いて、意見が変わったり、考えを深めたりすることができた。
- 班の人の発表を聞いて、自分の意見を深めることができた。
- 自分の考えをもっと積極的に出していきたい。
- 自分の意見は言うことができました。次は、班のみんなが発表できるような理由を考えていきたい。

上記の振り返りから、考えの変容や深まりを実感している児童がいたと分かる。また、「自分の考えをもっと積極的に出していきたい」「班のみんなが発表できるような理由を考えていきたい」など、次時への意欲がうかがえる記述が見られた。意識調査における質問12の項目に高まりが見られたことから、振り返りという活動は資質・能力の意識化や育成につながると考えられる。

【視点3】

以下は、意識調査における学習前後の意識調査の結果（一部抜粋）である。

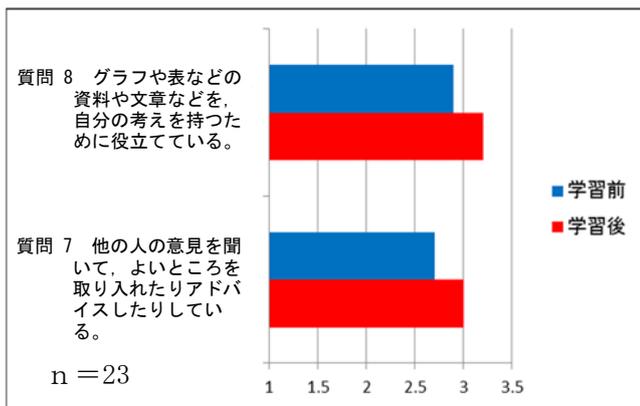


図4 学習前後の意識調査の結果（一部抜粋）

本研究では、田浦小学校独自の話型カードを活用した対話活動を日常的に行うことで、誰もが話しやすい学級の雰囲気づくりに努めた。また、ICTを

活用することにより、教材の拡大提示による課題の把握や考えの共有化を図った。質問7、質問8の項目に高まりが見られたことから、日常的な対話活動や学級の雰囲気づくり、ICTの効果的な活用により、思考力・判断力・表現力の育成にとって重要な要素である「互いのよさを取り入れたり、アドバイスしたりすること」「自分の考えを持つこと」が更にできるようになったと考える。

4 研究のまとめ

昨年度の研究の主題点は、当事者意識を生む「問い」や意志決定型の「問い」により、多様な価値観を持った他者と協働しながら学び合い、社会参画力という求められる資質・能力が育まれるかどうかを検証した。その結果、児童の社会に参画しようとする意識の向上や行動の変化が見られた。

本年度の研究の主題点は、歴史的事象を多面的・多角的に考察したり関連付けたりしながら、事象の意味や意義を児童自身で見いだしていくことができるような単元を貫く問いの設定、まとめや振り返りの工夫、学びのUD化等の手立てを講じることにより、これからの社会に求められる資質・能力が育まれるかどうかを検証するものであった。また、検証授業における問い「なぜ、日本は条約改正をすることができたのだろうか」に関しては、1単元のみならず、2単元分の学習を総括的に捉えた問いであった。つまり、本単元と前単元における既習事項を基に解決していかなければならなかった。

そのため、児童は、教科書やノートを見返しながら、自分なりのBEST3を考えていた。また、グループでの話し合いにおいては、歴史的事象の意味や相互の関連を踏まえながら、互いの考えを伝え合っていた。2単元分の学習を総括的に捉えた問いであったにもかかわらず、全員が根拠をはっきりさせて考えを伝えることができたのは、学習内容の定着が図られていたこと、そのためまとめや振り返りが行われていたこと、対話活動が日常的に取り入れられていたことなどが挙げられる。これらの取組は、第6学年だけでなく、全校で実践されている。これからの社会に求められる資質・能力を育成するためには、学校総体とした取組が重要であることを実感した。